

第7回利賀ダム環境検討委員会 議事要旨

開催年月日／会場	議事	出席委員(敬称略)	議事要旨	
令和2年2月27日 砺波市文化会館 多目的ホール (砺波市)	①第6回委員会の指摘事項と対応 ②環境影響予測の結果、保全措置(案)について	阿部 學(日本猛禽類研究機構理事長)	委員長の選出	・前委員長の辞任に伴い、委員の互選により中田委員が新たな委員長に選出された。
		大井 徹(石川県立大学生物資源環境学部 環境科学科教授)	第6回委員会での指摘事項と対応	・他ダムの事例では外来種が侵入し、拡大した後の対応となっており、苦勞している。工事初期からの対応が大切である。 ・特に法面緑化では外来種が入らないように注意していただきたい。 ・ダムができると貯水池にブラックバス等の外来魚が放流されることがあるので、対策を考えていく必要がある。
		中田 政司(富山県中央植物園園長)	環境影響予測の結果	・環境影響予測の結果について了承された。
		中村 浩二(石川県立自然史資料館館長)		・水環境の予測のうち富栄養化については、長期的な問題のためモニタリングが必要である。
			保全措置(案)	・緑化した法面に大型哺乳類(イノシシやシカなど)が侵入し、食害や踏み荒らしにより法面崩壊を引き起こす事態が生じるため、対策を検討しながら実施していただきたい。
			・保全措置(案)として希少な昆虫類を捕獲して新たに造成した環境へ移動するとあるが、個体数の少ない昆虫を捕獲すること自体難しく、移動しても新しい造成地に昆虫が定着するかどうかはわからない。現在の生息環境(湿地)が消失するのが10年以上先であるなら、それまでに現在の生息環境をよく調べ、よく似た環境の代替地を準備すべきであろう。	
			・保全措置として代替の湿地を準備する場合には、その場所の環境条件の把握と維持管理が課題となる。	
	その他	・ナガレヒキガエルとアズマヒキガエルの交雑により雑種が生じている可能性がある。成体によるDNA分析を行い雑種が生じているかどうか確認してはどうか。		

※欠席した委員からの意見は、事前に事務局が聞き取り、その内容を委員会にて報告した。